

在宅介護・地域包括支援センターの 評価について

地域包括支援センターの事業評価について

介護保険法の改正により、市町村及び地域包括支援センターは地域包括支援センターの業務について評価を行うとともに、機能強化に向けた必要な措置を講じなければならないとされた。

「地域包括支援センターは、介護予防ケアマネジメントや包括的支援事業等の実施を通じて、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的としており、今後、地域包括ケアシステムの構築を推進していく上で、その機能強化は重要な課題である。」

「地域包括支援センターが、その機能を適切に発揮していくためには、地域包括支援センターごとに業務の状況を明らかにし、それに基づいた必要な機能強化を図っていく必要がある。」

平成30年7月4日 付老振発0704第1号「地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について（通知）」抜粋

国による評価指標の課題と本市の対応

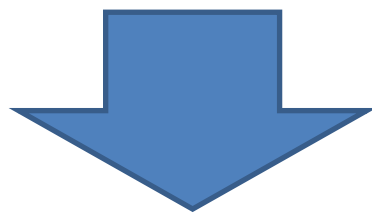
国の評価指標は全国統一のものであるため、この指標のみでは本市における施策の方向性や地域性等に応じた各センターの特性を把握しきれない。

課題 1

本市では小地域完結型の相談体制を整備する中で、市、基幹型地域包括支援センター、各在宅介護・地域包括支援センターが方針を共有化し、緊密に情報共有と連携を図っているため、国による評価指標ではセンターの評価結果が均一化し、差が生じない。

課題 2

担当地区の地域性やセンター独自の工夫などの状況が把握できず、評価を通した本市独自施策の方向性、優先度の意識付けも困難。

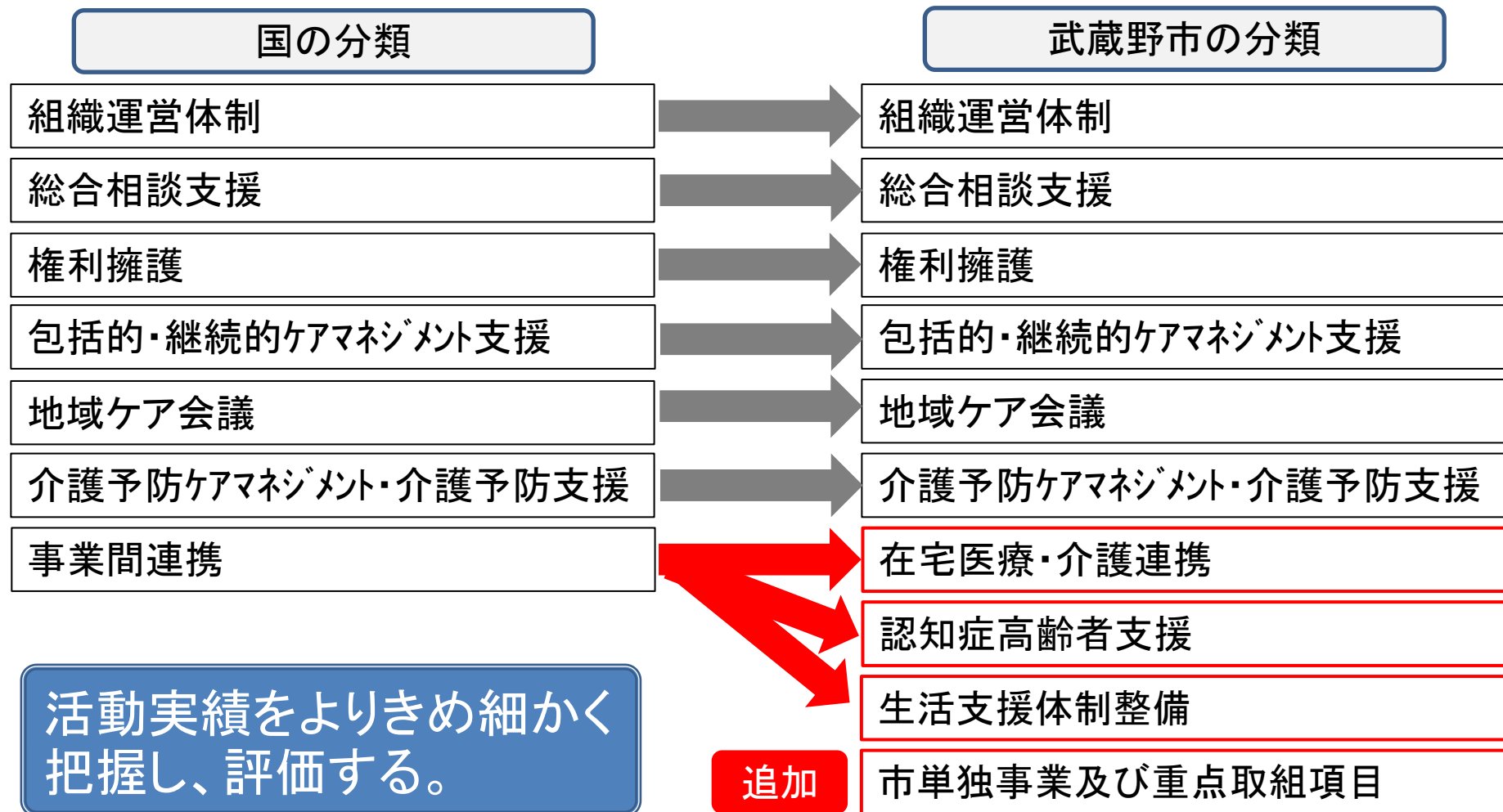


本市の対応

センター毎の課題を明らかにすると同時に、本市施策に応じたきめ細かい評価項目を設定する必要があることから、国の評価指標に本市独自の項目を加え、より詳細に各センターの活動実績を把握。

評価項目の追加と分類の分割、追加

- 本市単独事業や重点取組事項に関する項目を追加。
- 「事業間連携」として一括りにされていた分類を3つに分割。
- 「市単独事業及び重点取組項目」を追加。



追加した評価項目（例）

- 国の「運営状況調査票①」に、本市単独事業や重点取組事項に関する項目を追加
- 計6項目について、31問を追加

総合相談支援

- ・サービス未利用者実態調査は完了しましたか。

権利擁護

- ・全ての虐待事案について、通報から事実確認まで48時間以内に対応していますか。

包括的・継続的ケアマネジメント支援

- ・地区別ケース検討会の開催目標数は達成できましたか。

認知症高齢者支援

- ・認知症サポーター養成講座の開催数は何回ですか。（数字記入）

生活支援体制整備

- ・生活支援コーディネーターによる地域資源立ち上げ回数は昨年度実績を超えていますか。

市単独事業及び重点取組項目

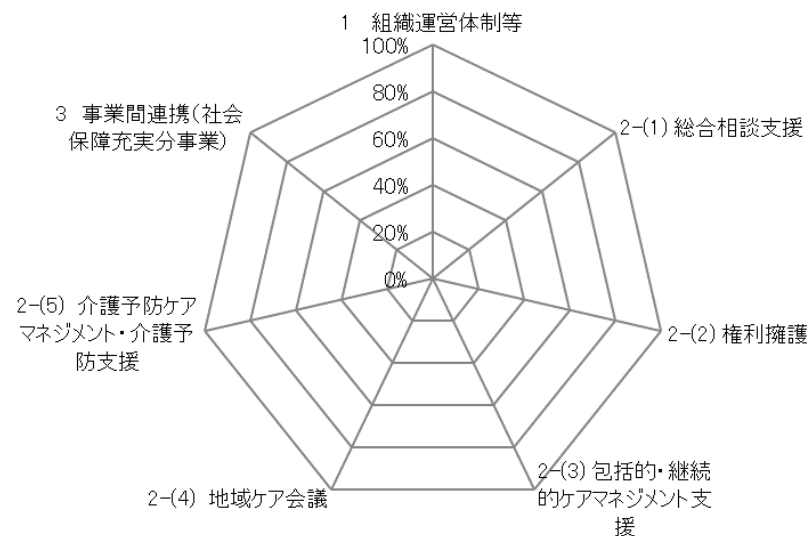
- ・いきいきサロンの新規開設目標数を達成しましたか。

レーダーチャートのイメージ

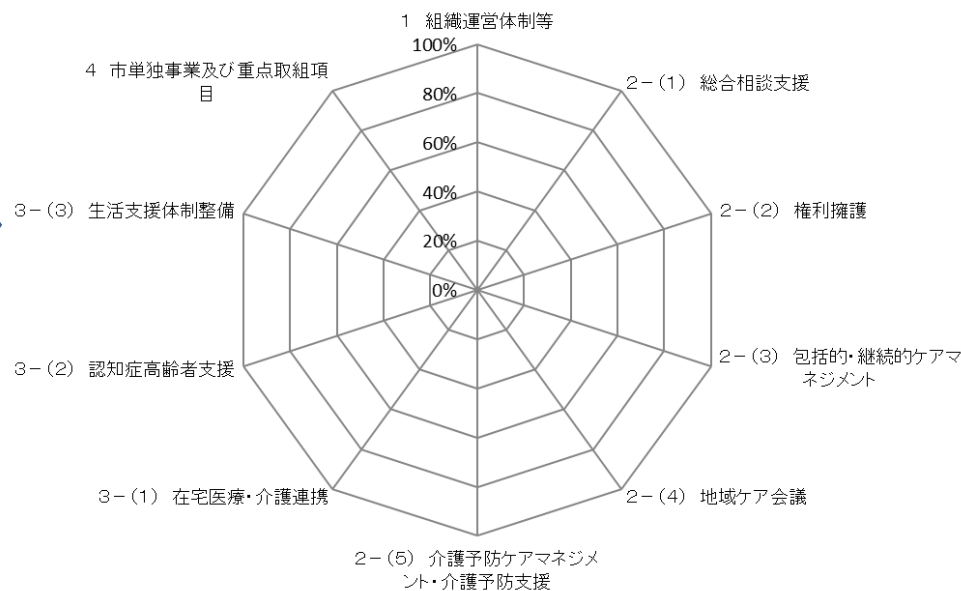
○評価結果はレーダーチャートで表示。

○分割、追加した分類により、レーダーチャートも7角形から10角形に細分化。

国のレーダーチャート
(7角形)

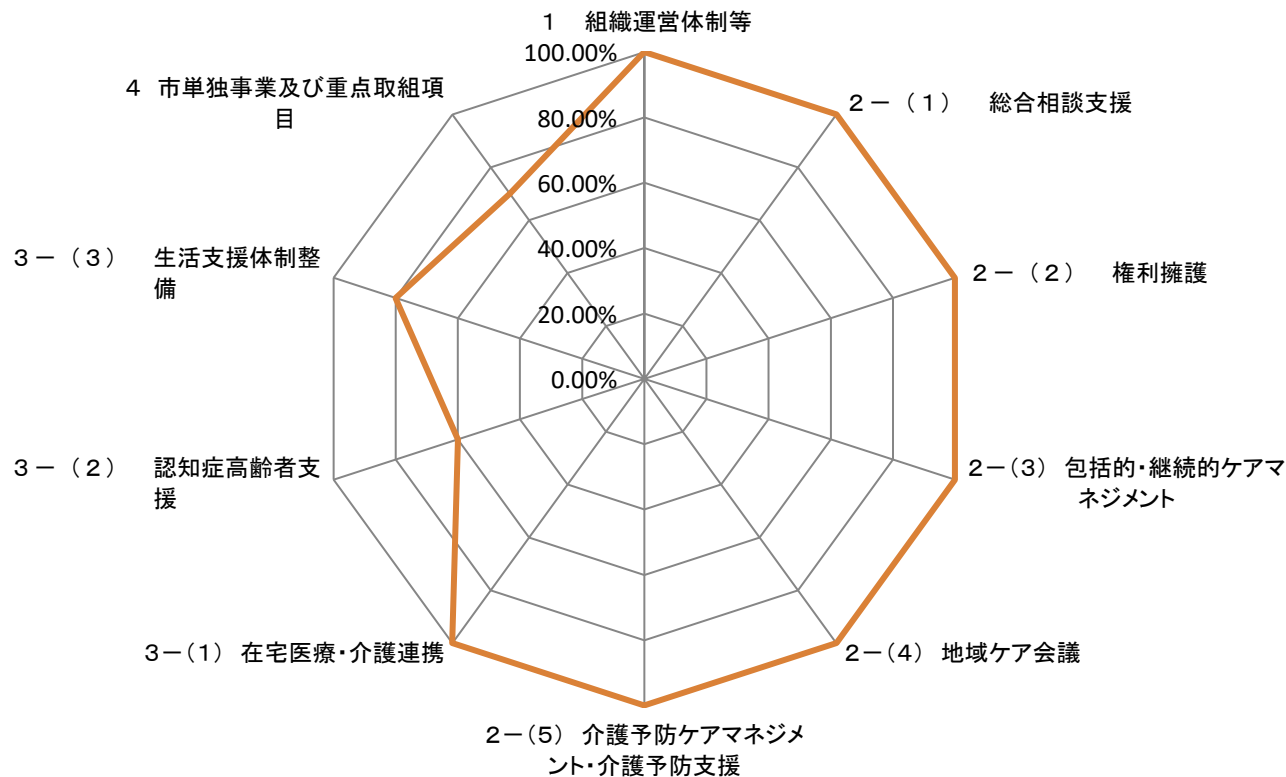


武蔵野市のレーダーチャート
(10角形)



ゆとりえ

在宅介護・地域包括支援センター



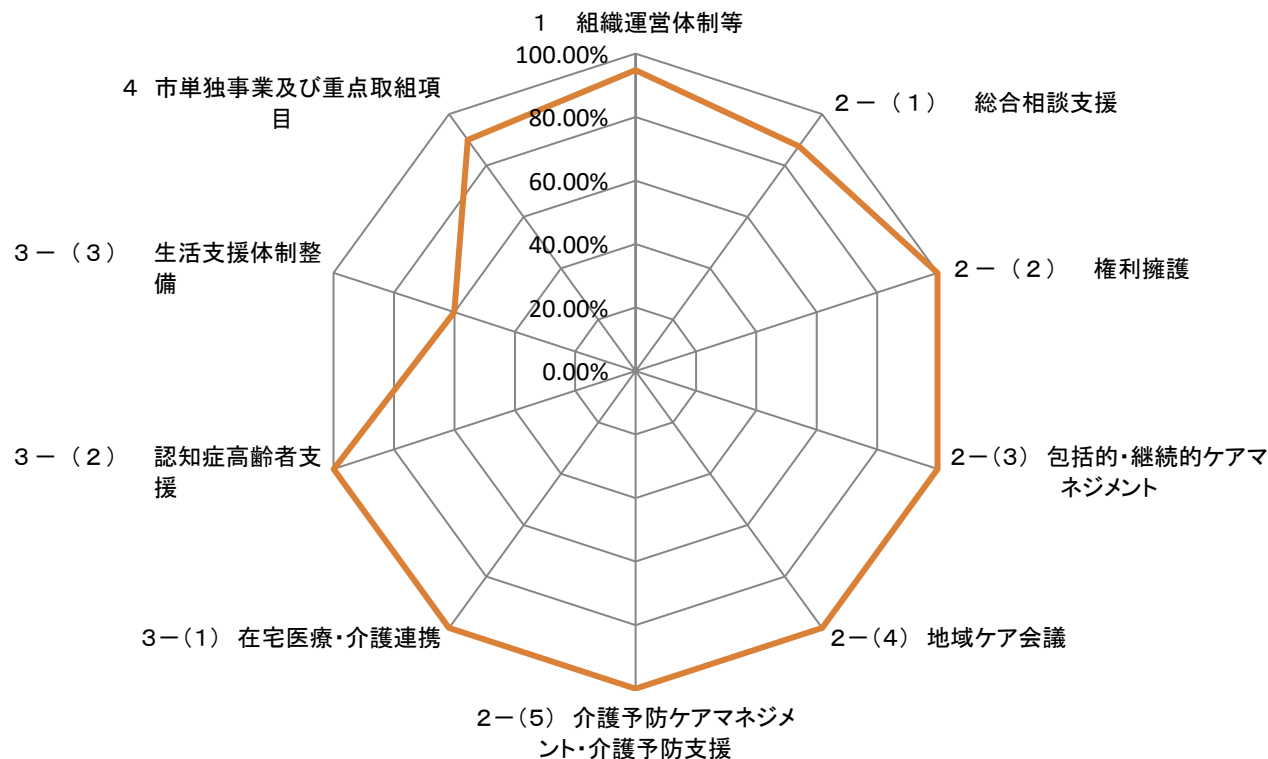
○法人独自の取組みである日曜日や祝日に相談員が常駐していることは地域住民にとっての安心感にも繋がり評価できる。

○市民の自主的な活動が立ち上がるきっかけ作りを行った後も、その活動に定期的に関わりながら情報収集を行うなど、地域の社会資源への支援と個別支援を効果的につなげる取組みを行っている。

○エリア内のラジオ体操の取組みはフレイル予防の啓発の場としても有効であり、担い手が地域移行したことも今後のモデルとして注目していきたい。

吉祥寺本町

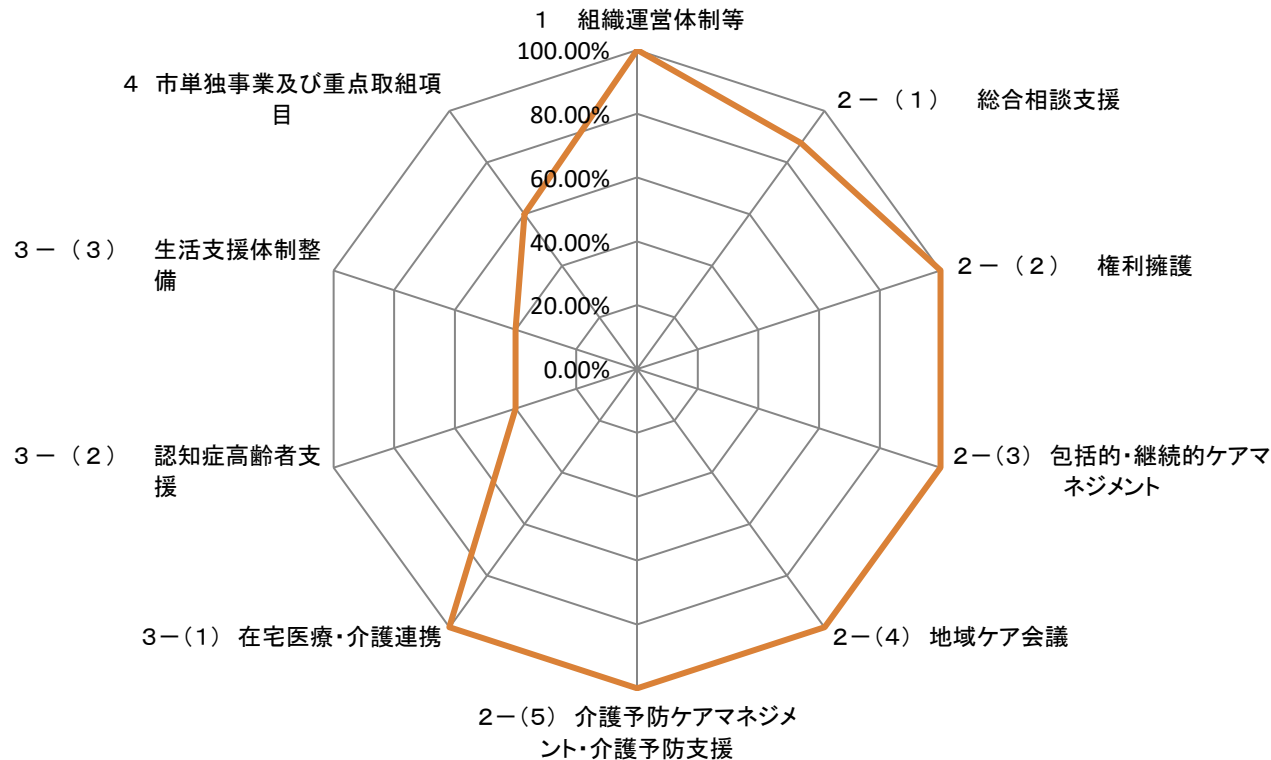
在宅介護・地域包括支援センター



- 月1回開催されている「吉祥寺本町・御殿山NETWORKの会」では、医療・介護・福祉の専門家もメンバーとして参加し、市民やケアマネジャー等にとって身近な存在として相談しやすい雰囲気を作れており在宅医療・介護連携の推進の面で評価できる。
- 家族介護者支援として実施した十色Caféでは、障害や認知症のある方、高齢者やその家族などが共に集えるよう企画を行うことができ、多世代交流、共生社会の実現の視点でとても評価できる。
- レスキューヘルパーなどの市単独事業を上手に利用した支援が行われている。

高齢者総合センター

在宅介護・地域包括支援センター

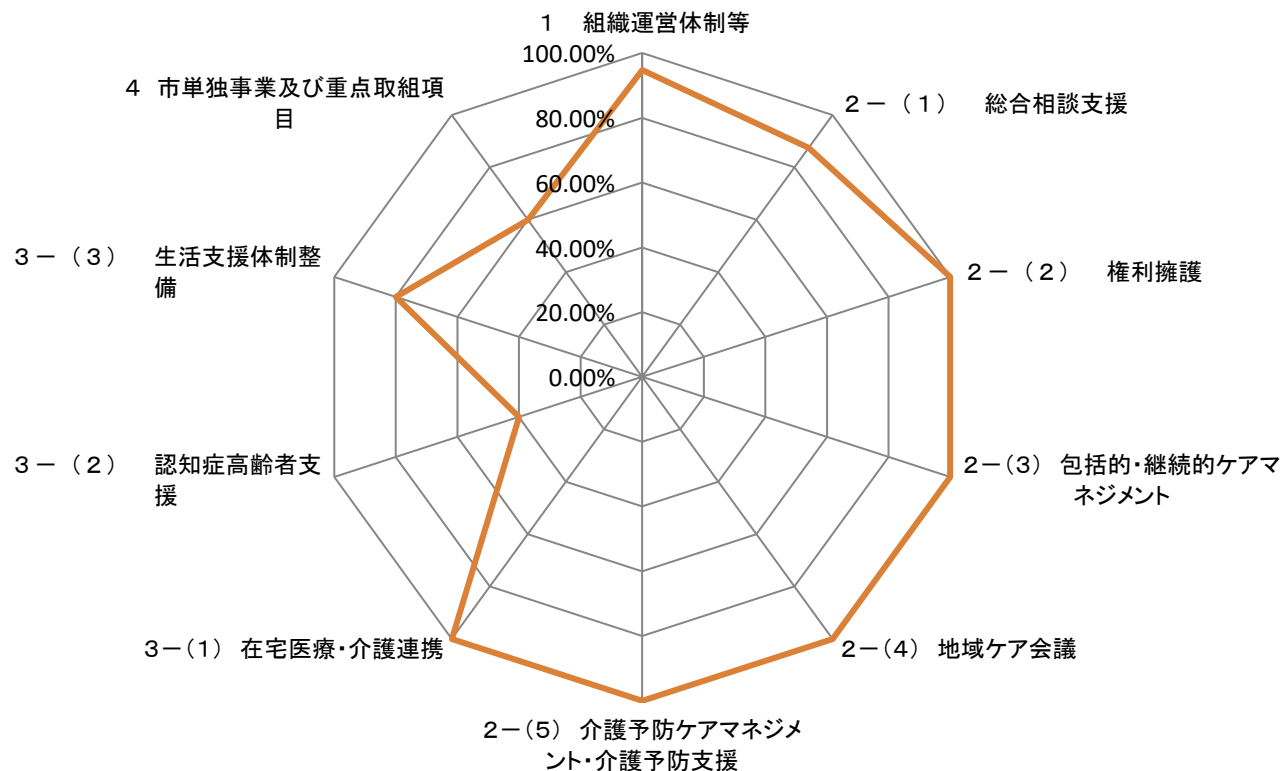


- エリアが広く、高齢者人口に比例し、相談件数も多い中、事務事業改善に取組み、超過勤務時間の削減という結果を出している。
- 住民同士が自ら考え、知り合い、見守り合える地域づくりを図ることを目的として、参加型の学びの講座を開催し、4回目は「個人の課題＝地域の課題」としてエリア会議と連動して実施するなど工夫した取組みができている。
- 地域の多様な団体の会合にこまめに顔を出すことでセンターの知名度向上に繋がり連携も図りやすくなることから、引き続きの取組みに期待したい。

吉祥寺ナーシングホーム

在宅介護・地域包括支援センター

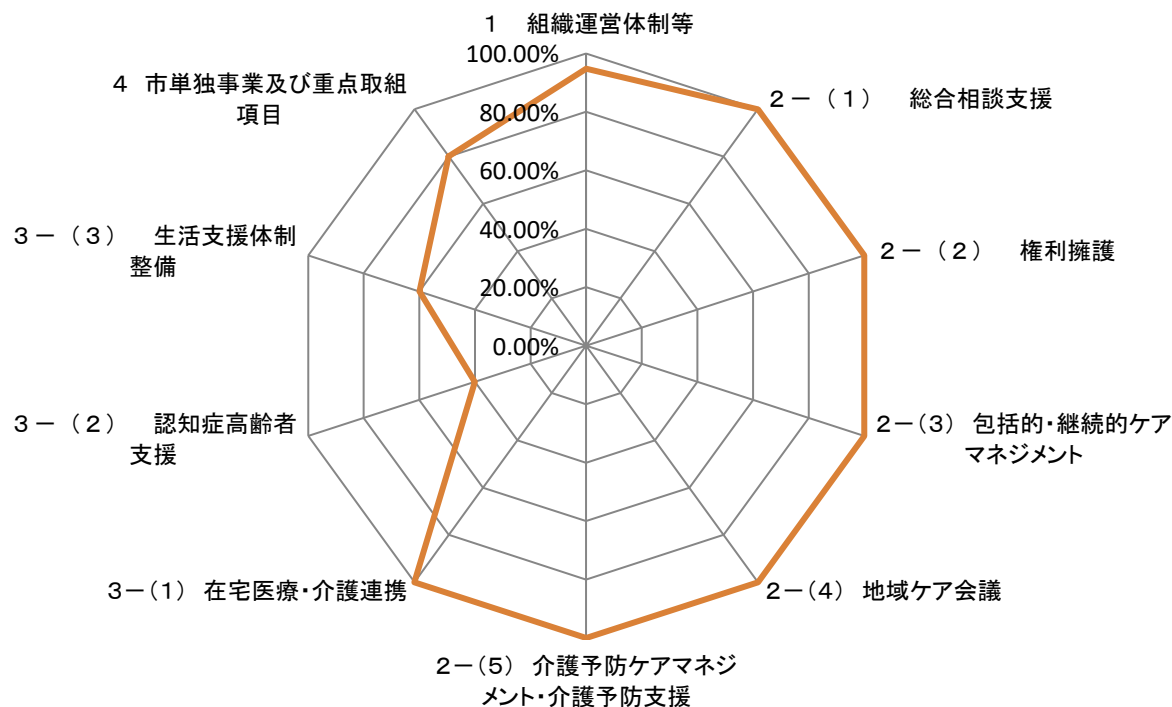
令和5年度 活動実績



- 専任職員を配置したサービス未利用者の実態把握についてはセンターとしての意気込みを感じるもので、今後も継続していただきたい取組みである。
- ケアマネジャー支援については、センター内で再検討し、結果的にサービス担当者会議などへの同席数が増加したことは、ケアマネジャー不足の中で支援の重要性を課題とし、寄り添った支援を行った結果と評価する。
- 地域づくりや介護予防のために「北町キャラバン」を効果的に活用し、着実に活動を広げている。丁寧に取り組んできた結果であり、今後の展開を期待する。

桜堤ケアハウス

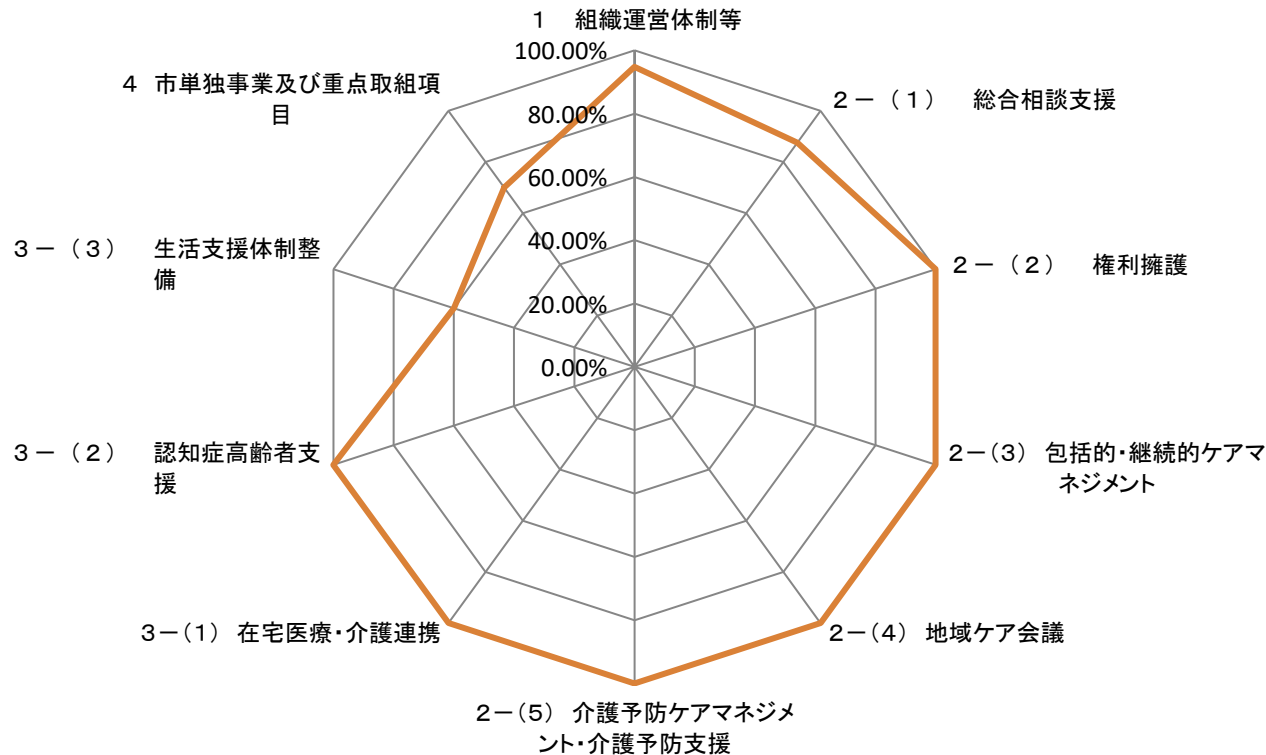
在宅介護・地域包括支援センター



- 虐待、権利擁護、退院支援・ターミナル、サービス拒否など適切な支援につながらない困難事例についても、一つ一つのケースに対して時間をかけ関わる対応を行っており、評価できる。
- エリア別地域ケア会議では、地域住民と地域課題について意見交換し課題を共有するとともに、内容を記した模造紙をコミュニティセンターに1か月掲示するなどして、参加者だけでなく、広く地域全体で共有する機会をつくるなどの取組みは評価できる。
- 限られた人員の中でも、「ウェルフェア・フェスティバル in 桜堤」のような地域の福祉事業者や施設の核となり、地域住民とのつながりを築く、地域包括ケアシステムの中核を担う事業をしっかりと展開している。

武蔵野赤十字

在宅介護・地域包括支援センター



- 武蔵野赤十字病院内に設置されている在宅介護・地域包括支援センターとして、病院全体が地域包括ケアシステムの推進により積極的な役割を果たせるよう、院内での連携、情報提供に尽力している。
- 地区別ケース検討会でファシリテーター育成に力を入れ、参加者から高評価を得、出席率もあがったことについて、課題を明確にし具体的な支援策を実行し結果を得たことを評価する。
- 多世代交流を行う「花時計」の事業を通して、子育て世代へのアプローチを行い支援に取り組んでいる。また、「つながる境南キャラバン」など、地域の社会資源を活用し、支援や活動場所の開発などの結果につなげている。